

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】○「一人一人を大切にされた指導や対応」では、「そう思う」と評価する保護者が40%近く、児童が70%と昨年より伸びが見られる。教職員は「そう思う」の評価が若干減少しているが、より高い課題意識の表れとも考えられ、さらなる充実を図りたい。○「友だちとなかよくしているか」では、児童の「そう思う」の評価は昨年より伸びており、教職員や保護者の指導や環境づくりの成果と考えられる。保護者の「そう思う」は昨年と変わらず、学校での取組や児童の様子等をより積極的に発信していくことで共有を図りたい。○道徳・心の教育の充実では、保護者の「そう思う」の評価は昨年より増加しているが、教職員は昨年より20%減少し、「どちらかといえば、そう思わない」も数%あるため、今後も心の教育を学校教育活動全般で実践し、更なる充実を図りたい。○設問全てにおいて、保護者と児童の「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」とする評価は昨年より減少している。よりきめ細やかに取り組んでいきたい。		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 タブレット活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
【学校から】○「意欲的な態度」では、保護者、児童、教職員とも昨年より「そう思う」が伸びている。昨年度に見られた児童の「そう思わない」は2%に減少したが、一人一人の児童が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、改善を図っていく。○「わかる授業、楽しい授業づくり」では、保護者、児童の「そう思う」の評価に昨年からの伸びが見られた。教職員の評価は少し下がっているが、授業力を向上したいとの意識の高まりとも考えられ、更なる「わかる授業・楽しい授業」に取り組む。○「タブレット端末の活用」の項目は、児童、教職員の「そう思う」の評価は昨年とほぼ同じであるが、保護者は10%の伸びがあり、学校の取組が児童の姿を通して伝わっていると考えられる。ただ「どちらかといえば、そう思わない」が10数%存在する点については、より効果的なタブレットならではの学習等の活用手段を探していきたい。		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	②特別支援教育の推進
子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。	
【学校から】○保護者の評価は昨年とほぼ同じだった。昨年7%ほど見られた児童の「そう思わない」の評価は0となり、活動機会の増加が考えられる。また、教職員の「そう思う」が少し減少している点は、まだ、以前ほど十分な状況ではないという意識もあると考えられ、現状に合わせた更なる健康づくりの工夫を進めたい。	【学校から】○保護者の評価の「そう思う」は昨年より10%近く増加し、「どちらかといえばそう思う」を合わせ95%となった。教職員では、「そう思う」が昨年より20%程度大きく減少した。今年度の『ほめほめ週間』等による子どものよさを見つける取組を継続し、さらに、全職員での児童理解を進め、安心安全な学校づくりを図りたい。	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

9 いじめや問題への対応
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

②特別支援教育の推進

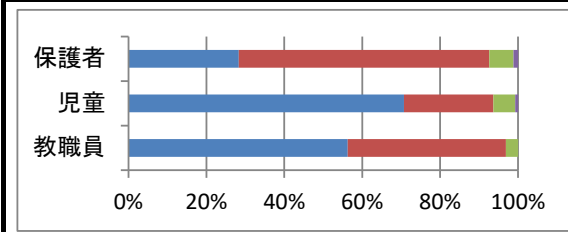
10 学校の支援体制	11 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

【学校から】○「いじめや問題への対応」に関しては、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価が、昨年と比較すると増加している。学校の対応により安心感が増えていると考えられる。反して、教職員の「そう思う」は昨年度の評価と比べると10%ほど下がっている。学校としてさらにできることを検討し、日頃の家庭との連携、教育相談等の機会を捉え、より細やかに連携していきたい。○「学校の支援体制」に関しては、教職員では昨年「そう思う」の評価より10%程度減少した。保護者と連携を図りながら、校内支援体制を見直し、改善を図りたい。○「交流及び共同学習」に関しては、児童の評価が「そう思う」が昨年より10%ほど増加し、「どちらかといえばそう思う」を合わせると90%強を示した。教職員の「どちらかといえばそう思わない」が数%ある点は、課題意識の表れと考え、「交流及び共同学習」等についてより深く学び、よりよい体制と実施を工夫しながら、児童の育成を行ってきたい。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

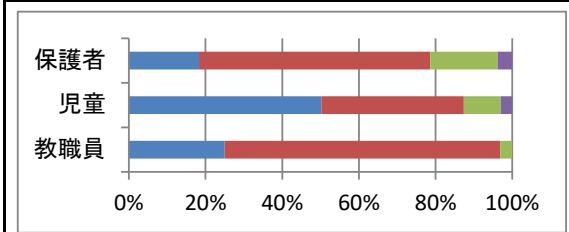


【学校から】○保護者と児童の評価は昨年とほぼ同じであるが、教職員は「どちらかといえばそう思わない」が現れた。コロナ禍の状況が少し緩和され、感染状況を踏まえての感染防止対策を継続しつつも活動の機会が増え、児童の安全、事故防止に対する意識が高まっていると考えられ、安全教育を推進していきたい。

②最適な学習環境の整備

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

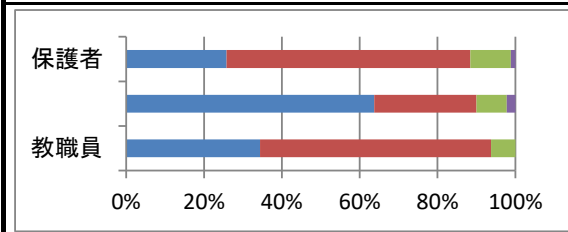


【学校から】○保護者の評価「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」が20%ほどあり、施設等についての課題を把握したい。教職員の「そう思う」の評価は大きく伸び、安全点検をはじめとする日頃の安全面への意識が伺える。今後も適切な整備と迅速な対応で、更なる安全管理に努める。

③家庭・地域社会との連携強化

14 教育方針・目標の理解

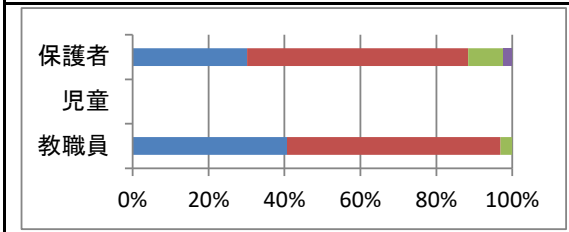
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○教育方針・目標の項目では、保護者・児童の評価とも、昨年とほぼ同様の評価である。教職員においては、校長講話や学校便り、学期毎の反省等で浸透していると考えられる。「託小っ子100点満点」の取組と児童のふり返りの状況を丁寧に把握し、方針や目標にそってさらに充実していきたい。○家庭や地域との連携に関しては、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%近くの評価となり、昨年より大きく増加している。教職員では「どちらかといえばそう思わない」があり、家庭、地域との連携をより細やかに図っていききたい。

15 家庭や地域との連携協力

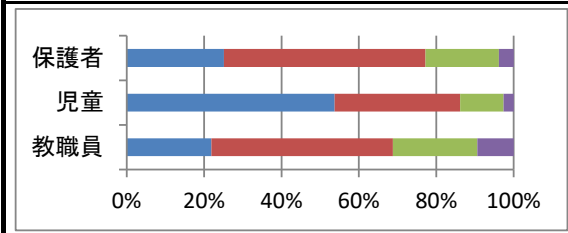
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



本校の教育

16 託小っ子100点満点①

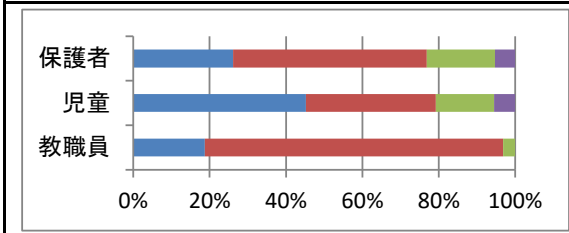
子供は、自分から進んであいさつをしていると思いますか。



【学校から】○進んであいさつは、「託小っ子100点満点」の1つの項目であり、指導や声掛けを継続している。昨年とほぼ同様に、児童の意識は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が80%を超え、保護者は80%弱、教職員は70%程となった。具体的な望ましい状況を共有し、みんなが気持ちよく生活できるよう、積極的に取り組みたい。○家庭学習の習慣は、保護者と教職員の評価は昨年とほぼ同様だが、児童の「そう思わない」が少し増加している。適切な児童理解のもと、家庭での時間の使い方の指導など学校としてできることを保護者と連携してやっていきたい。○「早寝・早起き・朝ごはん」については、保護者・児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が昨年より少し減少した。教職員の評価は、昨年より伸びており、継続して連携を図りたい。

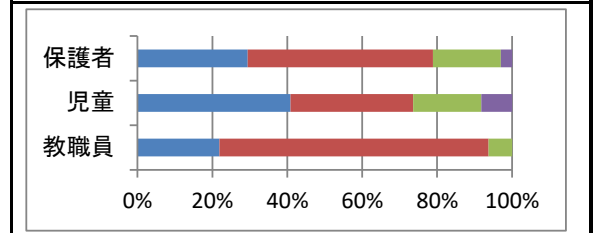
17 託小っ子100点満点②

子供は、家庭学習の習慣が身に付いていますか。



18 託小っ子100点満点③

子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていますか。



来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標・方針は、学級・学校便り、PTA新聞や活動、諸団体との会合等、ありとあらゆる機会を通じた発信を継続していく。学校の教育活動は全て、教育方針に則り、教育目標達成へ向けた活動であることを、行事等の具体的な活動を通してわかりやすく伝え、保護者・児童・地域で認識の共有を図る。
- 児童・保護者・地域社会に信頼される学校の教職員であるよう、日常生活や研修等の中で常に研鑽を積んでいきたい。また、授業改善等、教師の指導力向上を図り、児童に主体的、対話的に学んでいく姿勢等、これからの時代を生き抜く力を育てていきたい。
- 学校と保護者の連携による適切な児童理解のもと、校内支援委員会を中心とした体制の中で、必要な支援について確実に検討し、共通理解のもと実践していく。さらに、PDCAサイクルで常にふり返りと改善を行い、児童の育成を図る。
- 本校の教育目標・方針に沿い、新型コロナウイルス感染状況に合わせた教育活動を計画・実施していく必要もある。児童の安全や健康を第一に、学校行事の精選やウィズコロナ時代の新しい教育活動を教職員で共有し、家庭や地域との連携を図り、充実した教育活動を実施していく。

学校関係者評価

- 学級の集団がみんなて学んでいる姿がよいと思う。その中で、提示資料やオンライン等、ICTをよく活用した取り組みが行われていると思う。
- 一人一台のタブレットがよく活用されていると思う。様々な活動でよい面が多いと思うが、よくない影響もあり注意が必要だとも思う。ゲームなどが生活の中にある子どもたちの実体験をどう確保していくか等、タブレット端末とどう付き合っていくかを考えて実施していくことが今後大事になると感じる。
- 社会の状況から考えると、子どもたちの活動内容は以前に近づいていると思うが、運動による体力の増進、健康面を心配している。コロナ禍、子どもたちの運動の機会が保障できたらと思うので、体育の授業や運動会などの行事等の機会を大切にしていきたいと思う。
- 障がいのある児童と合わせ、学級ごとに個別に指導が行われているところに感動した。児童に合わせて細やかな指導がなされており、以前からよいと思っている。
- 基本的な生活習慣を小学校で指導してもらっていることはありがたいことだと思う。社会の風潮や流れに乗り過ぎず、大切なことを大事にしてあるのでよいと思う。地域の中で、子どもが会釈してくれる姿がとてもよく、学校での指導が子どもの意識や行動につながっていると感じる。
- 児童のアンケート結果や「託小っ子100点満点」の結果から、学校生活の中での子どもたちのよい姿がわかる。学校からのおたよりなどを通して学校の様子は伝えられているが、保護者にとって学校の様子があまりわからないと感じる面もあるようなので、学校・家庭・地域でより連携できればよいと思う。